

教育と文化

みんなで
考えよう
人権・同和問題
No. 256

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

● 問合先 生涯学習課人権・同和教育係 ☎03186

子どものいじめ、大人の責任

文部科学省が行ういじめに関する全国調査の結果が、10月に発表されました。佐賀県内の小中高校と特別支援学校が把握した令和2年度はいじめの認知件数は4930件で、前年と比較して3.7倍に増えていきます。思わず身構えてしまう数字ですが、子どもたちが答えやすいようにアンケート内容が見直されたことも一つの要因のようです。

いじめを否定する際に『いじり』、『悪ふざけ』、『遊びの延長』などの言葉が聞かれますが、傷ついた当事者が『いじめ』と受け止めれば、その行為は『いじめ』です。このことを踏まえると、今回の調査結果は、小さないじめも見逃さずに把握した『いじめの見える化』と言い換えることもできるのではないのでしょうか。

『いじめ防止対策推進法』では「大人にはいじめから子どもを救い、いじめをなくす責

任がある」と定められています。

いじめは、当事者である子どもたちの問題だと思われがちですが、いじめを無くすためには、子どもを取り巻く学校や家庭、地域が一体となって取り組むことが不可欠です。『いじめを無くす』という無力さを感じてしまうかもしれませんが、私たちにできることがあります。まずは、子どもの気持ちを理解するため、あの頃の『子どもの目線』を思い出すことから始めませんか。いじめは、いじめられる側だけでなく、いじめる側や周りのすべての人を不幸にします。私たち大人が、いじめられた子どもの心に寄り添うことはもちろん、いじめてしまった子どもの弱さにも心を寄せる取り組みが求められています。

幸せになるために生まれてきた子どもたちが、みんな幸せになれるように。

郷土の文化財

● 問合先 生涯学習課文化財係 ☎021262

正月を祝って（おめでたい文様）

1月号なので、『伊万里の遺構シリーズ』埋葬遺構を中心として『はお休みにして、おめでたい内容にしたいと思います。』

写真の鍋島焼は、地模様
に梅の花を敷き詰め、そこに松と竹を配置した松竹梅の図案となっています。

松と竹は、寒い冬でも緑を保ち、梅は、花を咲かせます。このよつなことから松竹梅は吉祥文と呼ばれ、おめでたい文様とされています。また、丸く、頭がとがっているものは宝珠といわれています。これは、宝の玉で火災が燃え上がっている様子を表している、願いが叶えられる玉とされています。宝珠は、宝船の積み荷の一つともいわれ、宝珠と松竹梅の組み合わせは、正月の喜びにふさわしい文様であると言われています。

鍋島焼には、これ以外にも鳳凰や宝尽くし、桃などの縁起の良い図案があります。近世の伊万里焼では、当時流行した文様などが使われますが、鍋島焼の文様は、大名家の季節行事や人生儀礼に関係していると言われていて、文様からも鍋島焼の特殊性がわかります。



↑ 色絵宝珠文皿 (1710～1740年代) 伊万里市所蔵



↑ 松竹梅と宝珠の拡大